

大温室の病害虫防除について

中山 長秀・藤田 正

当園の大温室の管理についての概要は、第2号で報告したとおりであるが、その後昭和56年から病害虫防除作業については、業者委託により実施することとし、56年度は月1回の散布を行った。しかし、温室で特に問題となるオンシツコナジラミ（主にランタナ、ダチュラ）、ミカンコナカイガラムシ（主にバンジロウ、カカオ、クロトン、ツンベルギア）が完全に駆除できなかった。

そこで本年度（昭和57年度）は、オンシツコ

ナジラミ絶滅を目標として殺虫剤の選定、散布回数の増加を計った（表参照）。オンシツコナジラミは、薬剤に対する抵抗性がつきやすいので、殺虫効果が認められているスプラサイド乳剤、アクテリック乳剤、プリクトラン水和剤を選んだ。プリクトラン水和剤はダニ、またスプラサイド乳剤はカイガラムシの殺虫効果をも考慮した。昭和57年7月頃にはオンシツコナジラミの姿を全く見なくなった。しかし、ミカンコナカイガラムシは、密度の低下は認められるが、完全駆除には至っておらず、昭和58年度は、ミカンコナカイガラムシの絶滅を目標として設計する予定である。

昭和56年及び57年度大温室薬剤散布工程表

年度	薬 剤	月												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
昭和56年度	スプラサイド乳剤、プリクトラン水和剤 トップジンM水和剤混合	○		○				○		○		○		○
	オルトラン水和剤、ケルセン乳剤 マンネブダイセン水和剤混合		○		○			○		○		○		○
昭和57年度	スプラサイド乳剤、プリクトラン水和剤 ベンレート水和剤混合	○									○		○	
	オルトラン水和剤、ケルセン乳剤 ベンレート水和剤混合									○		○		○
	アクテリック乳剤、プリクトラン水和剤 ベンレート水和剤混合		上旬 ○	下旬 ○		上旬 ○	下旬 ○		上旬 ○	下旬 ○				
	スプラサイド乳剤、アクテリック乳剤 マンネブダイセン水和剤混合			上旬 ○	下旬 ○		上旬 ○	下旬 ○		上旬 ○	下旬 ○			

園内気象記録

園内気象記録（昭和56年1月1日～12月31日）

項目 月別	気 温		湿 度		降 水 量
	平均最低気温	平均最高気温	平均最低湿度	平均最高湿度	
1 月	-1.0 °C	4.8 °C	46.2 %	88.9 %	27 mm
2 月	0.1	7.2	45.2	91.8	59
3 月	3.9	12.7	46.2	92.2	111
4 月	7.5	17.2	47.5	91.6	175
5 月	12.1	22.2	49.8	93.4	122
6 月	18.4	24.8	67.4	93.5	472
7 月	24.2	30.5	67.4	93.4	215
8 月	23.7	31.8	57.8	92.8	123
9 月	17.7	25.8	53.1	91.5	73
10 月	12.5	20.9	48.4	92.0	106
11 月	6.7	14.4	50.0	92.0	60
12 月	2.7	10.6	48.2	92.0	22
					1,565

最低温度記録日 2月27日 -8.7 °C

最高温度記録日 7月30日, 8月20日, 8月21日 36 °C

観測は、本園植物課事務所横に設置した自記温度湿度計（二段記入型、バイメタル、毛髪式、太田計器製作所製）および自記雨量計（隔測順倒ます型、太田計器製作所製）により行ったものである。

（高山 信明 記）